

往復書簡 (後編)

青森県で、りんご農園「山善 齊藤農園」を経営する齊藤寿さん。今後の農園経営の方向性、地域の仲間と設立した「合同会社アップルスマート」への想いなどについて、お話しをしていただきました。

拝啓 高木 勇樹様

今年は、青森県は積雪量も少なく、桜の開花も4月20日前になりそうな予報が出ており、春の足音が早いスピードで近づいてきています。

私は剪定作業や出荷作業などの通常作業と並行して、2月に東京ビッグサイトで開催された商談会に出展したほか、栃木県や長野県に視察に行つて色々な方々と交流を深めたり、さまざまな勉強会に出席して自己研鑽に取り組んでいます。青森でいうところの自分を高めるための「冬の農業」ライフを楽しんでいます。

先日は、お返事でアドバイスをいただきありがとうございます。早速、経営資源を細分化し、客観的に数値化して自分の経営を分析してみました。その結果、農地の整備や栽培技術など生産体系の部分では、これまで10年の歳月を費やしてきただけあり、自前に満足できる数値でした。

それに対して、企画や販売(マーケティング)、管理(マネジメント)、財務・収益(資金手当て、利益)などの部分には課題が多く、今の経営の弱点であることを改めて認識しました。

やはり今後は経営的側面に立って、企画や販売面の強化に重点をおいて収益力を高めること、現在のわい化栽培は剪定作業等に熟練の技術力が必要なので、新たな栽培技術を導入してどの従業員も剪定作業ができる体制にすること、そして、マネジメント能力を伸ばしていくことがベストの方針だと確認することができました。

これらの弱点を補う動きとして、昨年度、合同会社アップルスマートという法人を設立しました。地元のプロ生産者や加工業者数人が手を組み、それぞれの得意分野を持ち寄って、これまでの個人の小さな

な経営ではできなかった生産、商品開発、加工、販売を一貫して行える体制を整えました。これによって、今の自分の経営とは別に、新しい価値を創造するための第一歩を踏み出しました。

実は、2月に参加したと申し上げた商談会は、アップルスマートの一員としての初めての取り組みでしたが、安定した販売先の確保、情報収集、人的交流などの良い成果を得ることができました。まだまだ立ち上げたばかりで、課題の多い会社ですが、今後アップルスマートが発展していくことで、先日課題として取り上げた後継者不足や農業人口の高齢化、労働力不足などの地域が抱える問題を解消し、地域に貢献したいと思います。また、私自身も、収益の向上や従業員の若返り、安定した技術の継承などの課題を解決していくつもりです。

これらの取り組みを通じて、私を含め、将来を担う生産者とその家族、地域に明るい未来の希望を示し、少しでも貢献していきたいと考えています。

平成二十八年三月吉日

敬具

齊藤 寿(さいとう ひさし)

1977年 青森県生まれ
2000年 就農
2002年 山善 齊藤農園の代表となる

太陽の光をたっぷり浴びた「陽だまりりんご」(葉とらずサンふじ、シナノゴールド、王林、トキなど)の栽培・販売、陽だまりりんごを使った完熟りんごジュースの販売などを行う



拝復 齊藤 寿様

前回のお手紙で、小生が田舎館村（ご出身の田澤吉郎農林水産大臣にお仕えした）ご縁で青森の四季を堪能させていただいたことを申し上げましたが、その当時は弘前の桜の見頃はゴールデンウィーク。それから、桜前線は津軽海峡をこえ北海道へというのが相場だったように思います。それに比べると随分桜前線の到来が早まっていますね。

「冬の農業」ライブとは言い得て妙ですね。それを楽しんでいるという余裕、農業経営者を取り巻く環境変化をつくづく感じます。

確かに農業経営者の集まりに呼ばれる講演会は1月下旬〜3月上旬が圧倒的に多いです。日本の農業経営者の1年の計（経営方針）は冬作られるということでしょうか。

経営資源を細分化して客観的に数値化し、経営分析をされたということも当然のこととして、さらりと言われたことにまずビックリしました。小生の現役時代に「経営資源」と申し上げても、行政関係者も、農業者もほとんど反応してくれなかったように思います。

今の農業、農村は貴兄のようなプロ農業経営者に支えられているのだ、未来は明るいと感じました。むしろ、行政の鼻面を引く張っているのはこれらプロ農業経営者達ではないのかと。

行政が皆さんに学ぶ謙虚さを持つてば、強い、産業として持続する農業経営が日本農業の大宗となり、活力ある農村作りにつながる真つ当な農政展開ができるのではないかと。

経営分析の結果、数値の裏付けを持って自らの経営の強み、弱みを的確に把握されている。このことは客観的事実に基づき経営をみる、その上でこれからについて自らのモノサシ（感性）を当てるという姿勢でも

あり、今後とも堅持して欲しいと思います。

そして既に弱みを強みに変える取り組みとして合同会社アップルスマートを立ち上げ、具体的行動を展開されております。農業は老・壮・青、男・女が役割分担できる数少ない産業のひとつであり、だから農業が活力を持つことで、地域・農村も活性化するので。

合同会社がその道筋をつけるであろうことを確信しておりますが、時代の変化は今後ますますそのスピードをあげていくことも確実です。

貴兄自身の経営の強みの部分をパワーアップする方策を編み出しつつ、合同会社の「経営資源」の的確な把握と改善を通じて、明るい未来を示すという所期の目的を達成されんことを確信しております。

貴兄の試みの成否は、この国の農業・農村の行方に大きな影響を与えること疑いなしです。大いに期待しております。

敬具

平成二十八年三月吉日

高木 勇樹（たかぎ ゆうき）

一九四三年 群馬県生まれ

一九六六年 東京大学法学部卒後農林省入省、食品流通局砂糖糖課長、大臣官房企画室長などを経て、食糧庁管理部長、畜産局長、大臣官房長、食糧庁長官などを歴任

一九九八年 農林水産事務次官、二〇〇一年退官

二〇〇二年 榊農林中金総合研究所理事

二〇〇三年 農林漁業金融公庫総裁、二〇〇八年同公庫退任

二〇〇七年 NPO法人日本プロ農業総合支援機構副理事長

現在、NPO法人日本プロ農業総合支援機構理事などの立場から、わが国農業・農村の活性化、食の問題の解決に向けた活動に尽力

